

Ⅱ HICAREの概要

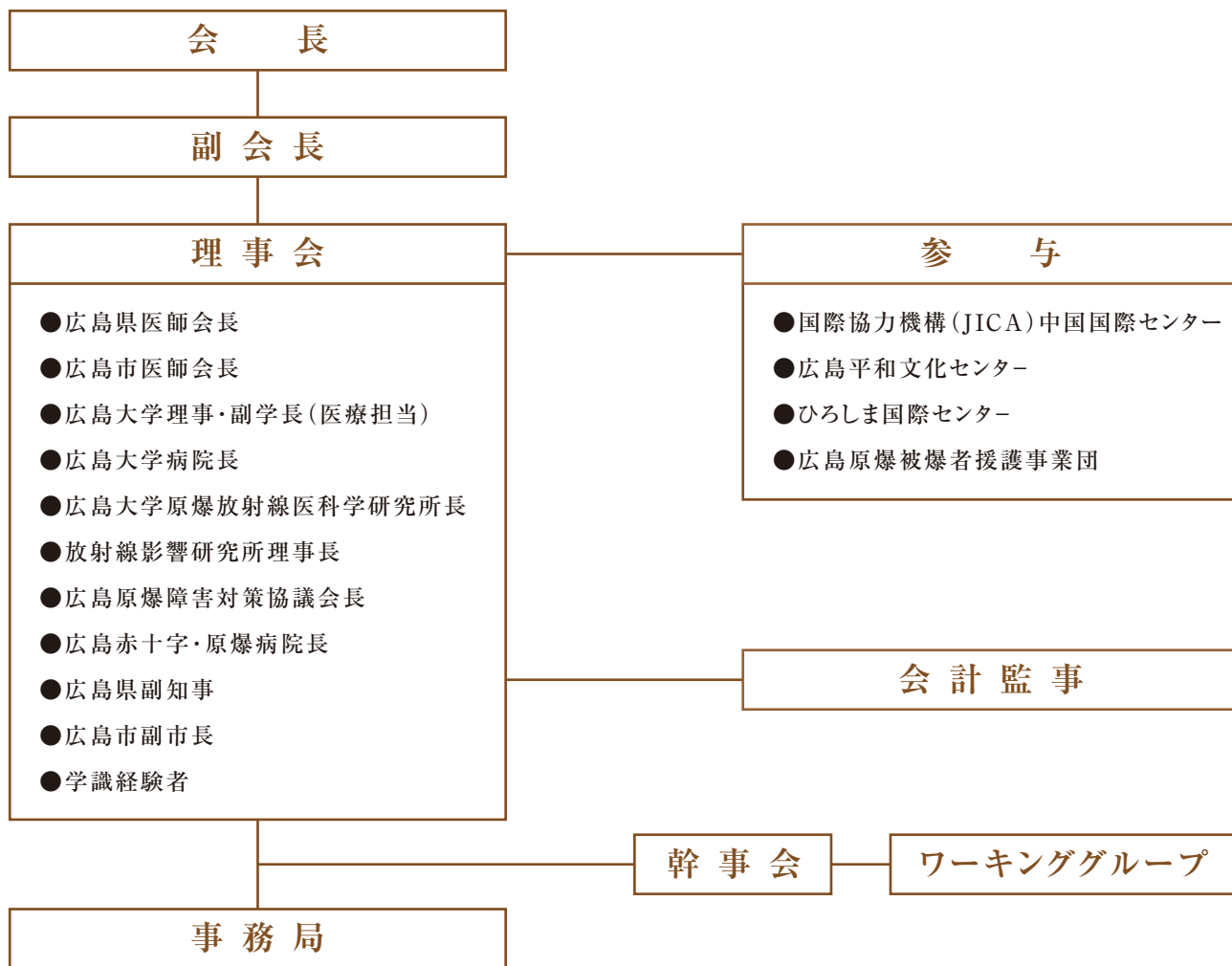
1. 組織

HICAREは、広島県、広島市と(一社)広島県医師会、(一社)広島市医師会、広島大学医学部、広島大学病院、広島大学原爆放射線医科学研究所、(公財)放射線影響研究所、(公財)広島原爆障害対策協議会及び広島赤十字・原爆病院の医学、医療に関わる8つの機関で構成されている。

また、運営組織として、理事会、幹事会、ワーキンググループ及び事務局を置いている。

理事会は、各構成機関の代表と5名の学識経験者の15名で構成され、幹事会は、HICAREの事業執行機関として、各機関から指名された10名の幹事で構成されている。別に、理事会の諮問に応じて意見を述べるため、4つの関係団体の代表が参与として加わっている。

幹事会の下には、特定のプロジェクトを実施するための「ワーキンググループ」を適宜設置している。広島県と広島市の職員で構成する事務局が事務全般を処理している。なお、HICAREの事業費は、広島県、広島市が共同で負担している。



2. 事業の概要

世界の被ばく者医療への貢献を目的とするHICAREは、下記に掲げるとおり、各国の被ばく者医療技術や放射線影響の研究の向上を図るため、医師等の研修受入れ、医師等専門家の派遣を事業の主な柱としている。また、医療従事者向け解説書作成事業を実施し、広島が蓄積してきた被爆者医療の研究成果の取りまとめと、情報発信を行ったほか、国際会議や講演会の開催等の普及啓発活動を実施するとともに、国際原子力機関(IAEA)と放射線被ばく者の治療及び研究に関する事業で協働するなど、放射線被ばく者医療に関する国際協力の意義と必要性について啓発活動を行ってきた。

世界の被ばく者医療への貢献と国際協力の推進

世界最初の被爆地である広島の、長年にわたる被爆者治療の実績や
放射線影響研究の成果を活かした事業を展開

HICAREの事業

- 医師等の受入研修
- 医師等専門家の派遣事業
- 放射線被ばく者医療国際協力普及啓発事業 講演会等・出版事業

HICAREの目指す姿

IAEAとの協働を契機とした
HICAREによる新たな国際貢献の推進

I.放射線被ばく者
医療の
情報発信の拠点

II.国際原子力機関
(IAEA)との
ネットワーク形成

III.人材育成の
拠点